

俳句同好会

星野委員

今日までに俳句に興味をお持ちの方々より京電協会報に時々投句を賜り掲載をして参りましたし、一方私の父が俳人であったこともあり、シリーズで俳句の生成から文学として発展して参りました過程について、執筆もしておりますが、今年より電業協会文化委員会の事業として継続的に定時俳句同好会を始めることになり、九月二十七日以来十一月二十九日まで三回開催致すことが出来ました。発足した時からの基本方針として特別に偉い俳句の先生をお招きしたり、選句を部外の人にお願ひせず、参加者の互選にすることと毎会会員が輪番で幹事をする事で進めて参りました。

今まで同好会に参加または投句参加された方は次の通りです。

- 大和電設工業(株) 棚谷 四朗
 淀電気水道(株) 田中 生雄
 住友電設(株) 藤沢 一夫
 オリヂナル電設(株) 石崎 一郎
 光星電工(株) 久保 白楊
 東海電気工事(株) 新谷 景流
 長谷川電気工事(株) 長谷川松蔵
 (株) トモエ屋 星野 紫杏
 事務局 吹ノ戸月耕

(第一回)

於…KPC会館
 九月二十七日(土)



幹事 星野紫杏

- 懸台『こおろぎ』
 こほろぎの 迷い来りし 夕げかな
 教会の しげみにこほろぎ 昼を鳴く
 つづれさせ 小さき母の 影遠く
 ゆばりする 脚下の間に 虫しぐれ
 こほろぎの 声細まりて 膝をだく
- 月耕 景流 白楊 月耕

席台『当期雑詠』

- 崖道を 曲ればどつと 漫珠沙
 木屋に 歩み止めたる 眼病み妻
- 白楊 白楊

(第二回)

於…KPC会館
 十月二十五日(土)

幹事 久保白楊

- 懸台『秋』
 秋風の河原に 鶉吹かれおり
 菊の香に 別れしひとの 髪おもう
 捨てかねて 焙き椎の実を 噛みをれり
 秋晴れに 白球のさき ジェット雲
 熱燗に せよと箸置く 秋鯉
 風船の 吸はれて行くや 天高し
- 白楊 白楊 白楊 四朗 白楊 景流

席台『夜なが』

- 黙りいて 妻とふたりの 夜長かな
 サイレンの 音遠ざかる 夜長かな
 病床の 友が電話の 夜長かな
 誰もいぬ 夜長信号 赤となる
 彷彿にし日の 写真取り出す 夜長かな
- 月耕 紫杏 四朗 白楊 景流

(第三回)

於…祇園 円山公園
 十一月二十九日(土)

席台『木枯し』『冬ざれ』

- 冬ざれの 母子寮の壁くずれおり
 別れ来て 橋長々と 冬ざれる
 独り酒 木枯遠く 聞く夜かな
 哲学の道に 冬ざれ はぐれ犬
 木枯や 樓門に鳩の 群れており
 木枯も 妻とそい寝て 炬火なし
 冬ざれの 長埜盡きず 御所の道
 冬ざれの 鴨川の瀬の ゆりかもめ
- 月耕 白楊 白楊 四朗 景流 紫杏 景流 景流

吟行

幹事 新谷景流

- しはぶきて 絵馬堂に待つ 寒さかな
 紅葉葉の 浮ぶ池面の つがい鳥
 くじ結ぶ 花も葉もなき 猿すべり
 柏手の 響にもみじ一葉散り
 散りもみじ 綾に織なす 石畳
 石橋の 桁に集る 散紅葉
 散り残る 紅葉に暮の 日色さえ
 社裏の 日溜に聞く 神楽かな
 川岸に 翼休めて 鷺秋思
 黄落の 神苑鳩の 群がれり
 もみじ映え 親子着飾り 七五三
 千歳飴 はしゃぐ子等に もみじ映え
 石垣に すじばかり這う 蔦さむし
- 白楊 四朗 紫杏 紫杏 紫杏 白楊 景流 景流 四朗 四朗 紫杏